

2024年11月08日

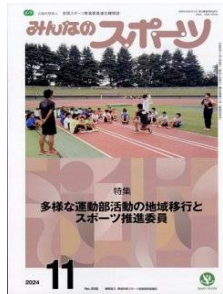
## 『みんなのスポーツ』11月号（No.508）から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の11月号は「**多様な運動部活動の地域移行とスポーツ推進委委員**」特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を3点記載します。



- (1) 鳥根県津和野町 廣石洋子さん** 自然豊かな環境で育ち、家族の食堂を手伝いながら地域の人と交流を深めた廣石さん。恩師との出会いや体育の先生を志したがかなわなかった過去など、波乱万丈の人生を送られました。現在はスポーツ推進委員として、若者の成長を願い、スポーツの力で地域を活性化しようと奮闘中との事。冒頭の部分を読み一気に文中に引き込まれた。自分とは異なるが今取り組もうとしていることは全く同じ。自分がどう取り組んだらよいか、地域や環境など異なるが多くのヒントが文中にはあると感じました。  
推進委員になったきっかけも似ている、全国に頑張っている人はたくさんおられることを感じた。活動を通して人と人とのつながりの大切さや色々な人の協力で成り立っていることも昨今実感しておりみんなが楽しめる場を私なりに地域のみなさんと作っていきたくと強く感じました。
- (2) 若手委員の「リアルな声」から「スポーツ推進委員のミライ」を考える** 今回の記事の岩手県釜石市の方は22歳。今横須賀市では一番若い方は37歳である。以前は20歳代の方も何名か在籍されていた。私自身もコロナ禍もあけて委員の発掘のため色々な行事等に顔を出したりしていますが、中々巡り合えない。10年近く前にある学区の健民運動会を見に伺ったら、お母さんと娘さん（20歳代前半？）に出会ったことがあった。お母さんが大のスポーツ好きで放送係などテキパキこなしておられ娘さんも同様だった。注目して仲間引き込むべきだと今考えているが時はすでに遅い。タイミングよく声掛けなどしているが難しい。今回の事例のような人を見つける目を養うこと、行動力の大切さを感じている。
- (3) 第78回全国レクリエーション大会** スポーツ推進委員（当時は体育指導委員）になった1年後、全社の教育部門に異動した時に、新入社員の研修も担当した。必ず行うキャンプ、その時に学んだものが、キャンプインストラクターから最終的にはディレクター1級まで資格を取った。その時合わせてレクリエーションも学んだ。座学は全部学んだ、資格を取るには実際の場合（市町・協会のイベントに参加）で実技体験・現場実習が同等の時間あった。仕事もあり実習は中々多くに出かけられなかった。今回の記事を読んで時代とともに変わってきており、あの時にレクリエーションで学んだ事は今でも色々な場面で、アイ

スプレーキングの場面で使っている。今回の記事を読んでいて来年は参加してみるかとも感じた。スポーツだけでなくこの手法も使っていくと有効であるとも感じています。

今月号では3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて（行動）みませんか？

\* **本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがある**ように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど感ずると思います。是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上